

会報電子版の記事 目次

1. めだか (システム監査人のコラム)	2
【システム監査人の悩みー安全・安心への考察】 【システム監査人の自問自答】		
2. 投稿	【システム障害に備える～長期間の安定稼働状況ゆえの備えが必要】 4
3. 会長コラム	【研究会、部会、委員会の活動、運営について思うこと】 6
4. 研究会、セミナー開催報告、支部報告		
(支部報告) 【システム監査体験セミナー1日コース(九州支部主催)報告】 7		
5. 注目情報 (4/1~4/30)	10
【IPA「プログラム言語 Ruby、国際規格として承認」を発表】 【IPA「クラウドコンピューティングのセキュリティその意味と社会的重要性の考察」を公開】		
6. 全国のイベント・セミナー情報	11
(事例研) 【事例に学ぶ課題解決セミナー】 (東京) 【5月の月例研究会】 (近畿支部) 【第133回定例研究会】 (近畿支部) 【システム監査体験セミナー1日コース】		
7. 会報編集部からのお知らせ	15
会員限定記事 16		

めだか 【システム監査人の悩みー安全・安心への考察】

「安全第一」とは、工事現場で良く見る標語です。

英語では、「Safety First」と言っています。以前、テレビで中東でのプラント建設工事プロジェクトを伝える報道番組がありました。朝礼のときに、日本人の現場責任者が、大勢の外国人の建設作業員を前に、その日の進捗予定を確認したあと、「Safety」と叫ぶと、外国人である大勢の作業員が声を合わせて、「First」と言い返していました。言い換えれば、今日も現場事故ゼロでがんばろうということです。

一方、「安心」は、安心感というように、心の問題です。昨年の東日本大震災と福島第一原発事故以来続いている放射線被害の報道の中に、言うに言われぬ不安感が醸し出されて、特定地域の農作物や水産物に安心が持てないという風評被害になったりもしています。

「安心」で和英辞典を引いてみました。

relief (苦痛・心配などの去った後の)安堵(感)、安心
ease (精神的な)気楽さ、安心、安らぎ; (肉体的に)楽であること
rest 安楽、(心の)平静、安心
security 安全、無事;安心(すること)

とありました。どうも、英語の言葉で、「安全・安心」の日本語の中の「安心」にぴったりとする言葉は無いように思います。

システム監査と関係の深い情報セキュリティは、「security」の中の情報に関する言葉です。「security」という言葉の英語訳が、「安全、無事;安心(すること)」とあるので、「security」が「安全・安心」をひっくるめての対訳なのかとも思います。

「安全」は、組織的、人的、物理的、技術的に安全管理措置として、システム監査でも、リスク対策を手にとったり見たりして確認してみることができます。しかし、「安心」は、心の問題であって、システム監査人にとって取り扱うのが厄介な事象です。毎日根気よく続けている工事現場での朝礼の実施や、マネジメントシステムでいう継続的改善への取組みを、わかりやすく関係者に説明していくことが、関係者の「安心」を形成していくように思います。

(空心菜)

(このコラム文書は、投稿者の個人的な意見表明であり、SAAJの見解ではありません。)

めだか 【 システム監査人の自問自答 】

先日、システム監査とシステムコンサルティングの違いは何なのかと、同僚のシステム監査人からそれとなく問われた。

問われた理由の一つは、情報社会と言われるわりには“システム監査”がなかなか思うように普及しない、社会認知が進まないことからの真面目なシステム監査人の苛立ちかもしれない。

“システム監査”それ自体を他との比較で明確に識別、説明できなければ、それ自体の普及はなかなか難しいという、システム監査にとって問われて久しい問題である。

そんな青臭い議論はどうでもいい。被監査部門にとって役立つ指摘事項が書ければいいんだと割切るシステム監査人も多い。

(だいたいこう言うシステム監査人はシステムコンサルティングも生業にしている。)

しかし、これでは正にシステムコンサルティングとの峻別が出来にくい。だから、経営者にシステム監査導入を迫っても、うちにはいいシステムコンサルタント(システムアドバイザー)がいるから結構ですとなりそう。

自分自身が何で、他と何処が違うのかの、自分自身の Identity が明確に認識できなければ自信をもって自分自身を売り込むことはできないし、相手に迫る迫力も出ない。

システム監査の Identity は、時代の要請(情報化の進展)に沿って変化しているのかもしれない。

例えば、情報化初期段階では、システム監査は、改善提案とそのフォローアップを特徴に、客観的立場とは言え、情報システムに対する指導的(アドバイザー的)役割も担う、組織内の統制ツールの一つと位置づけられていた。しかし、今日、システム監査は、現場指導側面も持った組織内の統制ツールから、組織と利害関係者の間であって、組織の、利害関係者に対する説明責任を担保するツール、また、利害関係者の、当該組織の情報システムに対する客観的評価情報の入手手段としての役割に、その意義が大きく拡大してきているとも言える。

時代により、その役割は変わるかもしれないが、いずれにしても“システム監査”それ自体を他との比較で明確に識別、説明できなければ、それ自体の普及は難しいという、システム監査にとって問われて久しい問題に変わりはない。

皆さんの考えは如何だろうか。

(広太雄志)

(このコラム文書は、投稿者の個人的な意見表明であり、SAAJの見解ではありません。)

投稿

■ 【システム障害に備える～長期間の安定稼働状況ゆえの備えが必要】

理事 大石正人

事業継続面の要請が強い重要インフラ事業者のひとつである金融機関(銀行など)は、決済サービスを中断・誤りなく提供し続ける責務を負っています。給与振り込み、公共料金の振替、送金や振り込み、現金の預け入れ、引き出しなど、金融機関の決済サービスは多種、多様にわたり、日々膨大な件数、金額のトランザクション処理をコンピュータシステムに担わせています。

こうした決済サービスは、個別金融機関の情報システムと、集中決済機関(全銀システム、日銀ネットなど)の情報システムが連携することによって実現されています。決済は債権・債務の履行を伴うものだけに、決済電文がシステム間で遅滞なく伝送され、決済口座を通じて「信用の連鎖」が円滑に機能するよう期待されています。

情報システムの信頼性は企画、開発、運用、保守という一連のプロセス管理により担保されること、こうしたプロセスがきちんと機能しているかどうかを検証するのがシステム監査の重要な役割であること、は改めて申し上げるまでもありません。しかし監査の対象はどちらかというと、保守よりは新規のシステム開発案件の方に、重点が割かれてきたことも否めません。というのも、こうした新規開発の場合の方が、プロジェクトの規模や重要性も高く、プロジェクト本体に投下される資源も大きいので、経営陣からのシステム監査の要請もそれだけ強いからです。

もちろん運用段階のシステム監査についても、例えば部署(システム運用部門)や拠点(システムセンター)ごとの監査などの形で実施されていますが、ともすると部署や拠点の運営面の課題に焦点が当たりがちであり、運用面から企画・開発段階までさかのぼって課題を抽出するところまで手が回っていないのが実情ではないでしょうか。

こうした問題意識にも沿う論考(リスク管理と金融機関経営に関する調査論文)が日本銀行金融機構局から発表されています。http://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2012/ron120216a.htm/

「システム障害管理体制の実効性向上に向けた留意点」と題されたペーパーの主意は次の下りにあります。「特に、長期間安定稼働を続けているシステムについては、それが故に、潜在リスクが長期間に亘って蓄積し得る一方で、マニュアル類の更新や定期的な障害対応訓練などリスク管理水準を維持するインセンティブが後退しやすい面がある。万一、資金決済や為替業務を担う重要システムにおいて障害が発生した場合には、影響範囲が大きく復旧まで長時間を要する大規模障害となりかねないだけに、十分な注意が必要である。」

このくだりが、昨今の代表的なシステム障害事例を踏まえたものであることは容易に推測されます。

以下ではこの主意の背景を掘り下げるかたちで、論考とその意義を紹介してみたいと思います。

1. 潜在リスクの蓄積とシステム稼働の前提条件の整理

システムの稼働状況は通常、所管システム開発部門や運用部門、あるいは必要に応じユーザー部署でも定期的な

モニタリングが行われています。しかし基幹システムは連携する処理が様々で、ユーザー部門が多岐にわたるがゆえに、稼働の前提となる環境変化が十分に織り込めない可能性があります。

金融機関の場合ですと、システムの利用方法(サービスの提供チャネル<窓口処理から様々な端末からの利用へ>の拡大など)の変化、季節パターンでないイベント(例えば、被災対応での臨時口座の設定)を関係部署が認識できない、もしくは認識できてもその影響を事前に織り込むことが難しいケースもありそうです。詳しくは上記論考をご参照ください。このような状況で、一つひとつの前提条件の変化は小さくても、それが蓄積することでシステムの上限值への抵触や、認識できていないシステムネックが顕在化するリスクもあります。

2. 長期間安定稼働していることへの安心

新しいサービスの提供は営業面にもプラス効果がみえやすい一方、既存のシステムはそれが安定稼働している限りは資源配分のインセンティブが低下しがちです。もちろん安定稼働の基盤が損なわれていないかについて、関係部署は十分な注意を払おうとするわけですが、新たなリスクが顕在化するまで情報が関係部署で共有されない懸念も十分あるわけです。特に付加的なサービスの影響が潜在リスクをあぶり出す可能性を予測することは容易ではありません。

3. リスク管理水準を維持する

本論考では「システム障害の発生を完全に防止することは、これに要するコストや障害が偶発的に発生することを考慮すると現実的ではない」と事前防止の限界を認識しています。ではどのように対処すればよいのでしょうか。

これについてこの論考は基幹システムが長期間安定稼働しているがゆえに、その安定稼働への関心が低下しないように「経営陣の関与のもとで、障害発生の原因分析や予兆管理、あるいは迅速な障害復旧を可能とする体制の整備に継続的に取り組むこと」の重要性を指摘し、そのうえで「システムリスクの顕在化を抑制する、あるいはリスクが顕在化した場合の影響を極小化することは、極めて重要である」としています。

4. 具体的なヒント

こうした問題意識からこのペーパーではシステム障害管理体制の実効性向上に向けた留意点を、「障害発生時の未然防止対策」「障害発生時の対応」「障害管理に対する経営陣の関与」の3つの観点から取りまとめています。また日本銀行の知見として把握している問題事例をもとに取りまとめた「障害管理体制面の問題点と対応策」や、「想定される障害事例と対応策」も添付しています。

今後も決済サービスを支えるインフラとしての情報システムの重要性は変わらないでしょう。システム監査をする立場から、被監査企業や対象システムについて、上記のような観点から必要な対処が行われているかを検証することは有効だと思われます。

システム監査の着眼点として(システム運営に携わる方へのヒントとしても)、ご一読をお勧めします。

(この文書の意見にわたる部分は日本銀行の公式見解ではありません)

会長コラム

研究会、部会、委員会の活動、運営について思うこと

会長 沼野伸生

先月号の本コラム（「システム監査の一層の普及を目指してまずは会員拡大を」）でも触れたように、残念ながら協会の会勢（会員数、予算規模、本部現預金残高など）はここ数年下降線を辿っています。

そこで、早速会員増強プロジェクト（通称：小野プロジェクト）が立ち上がり、会員拡大に向け本格的な活動を開始しました。研究会等から招集されたプロジェクトメンバー、また支部役員がアイデア、計画を出し合い、スピード感を持って取り組みます。リーダーの小野副会長は半年で一定の成果を出したいとメンバーに檄を飛ばしています。会員の皆様のご理解、ご支援を重ねてお願いします。

さて、会員拡大に取り組むに当たって、研究会、部会、委員会の活動、運営について少し思うところをお話したいと思います。

最近いろいろな学会で、会員拡大のため、紹介制度を作り紹介した会員には粗品を贈る、キャンペーンを張り入会金を割引くなどを行っています。勿論これらは会員拡大に有効な現実的な施策と思います。

しかし、会員拡大の基本は、協会に入ってメリット感が得られるような、魅力ある協会活動を展開することです。研究会等の活動を活性化し、その成果を積極的に会員へ広報、還元し、当協会の魅力を一層高め、新たな会員を呼び込み、それによって更に研究会等の活動を活発化していくというサイクルを回すことが重要であり、基本です。

一方、ここ数年の会員数の下降傾向を止め、上昇に転じさせるためには、従来の延長ではダメで、過去の流れ（考え方）の転換が必要だということも明らかです。つまり協会活動の実態である研究会等の活動、運営について基本的な考え方の再検討、再確認も必要と思うのです。

協会活動の資金は基本的に会員が納めた会費であり、研究会等の活動の最終成果物はもとより、途中経過の情報も含め活動に係る全ての情報の所有者は基本的に会員です。従って、最終成果ばかりでなく途中経過（中間成果物や、活動経過情報など）も積極的に会員に広報、還元して行かなければなりません。

しかし、これまで、研究会等の活動の最終成果は出版、セミナー、講習会、月例研究会などで会員に還元していますが、途中経過の会員への広報、還元は必ずしも十分ではなかったかも知れません。

今後は、研究会等の活動の途中経過（中間成果物や、活動経過情報など）の公表も積極的かつ密に行い、研究会等に参加していない一般会員がそれに対し意見を発する機会も作り、研究会等の活動と一般会員との距離を縮め、またこれにより研究会等の活動の一層の活性化も図り、協会会員としてのメリット感を更に高める努力も欠かせないと思います。

テーマが大きく、なかなか最終成果が纏まらないため会員に十分な活動情報が還元されないのは問題です。しかし、陳腐な中間成果の公表は会員の期待を裏切り、協会会員であることのメリット感を損ねることにも注意が必要です。

その意味でも、会員拡大の基本は、本部、支部の研究会等の活動の一層の活性化と高度化、そして途中経過情報も含めた活動情報の会員への適切、かつ積極的な広報、還元に着目すると思います。

研究会、セミナー開催報告、支部報告

■【システム監査体験セミナー1日コース(九州支部主催)報告】

報告者 No.465 藤平 実

2月18日(土)、九州支部主催による「システム監査体験セミナー1日コース」が、福岡市早良区西新の「西南学院大学 西南コミュニティセンター」において開催されました。

当日は、福岡も寒波に見舞われ雪が舞う寒い一日でしたが、セミナー会場は14名の受講者を迎え、講師に近畿支部の三橋潤氏を招き、また九州支部スタッフ9名による総勢24名による真摯なセミナーへの取り組みで会場が熱気に溢れ、寒さも吹き飛ばし成功裏に開催することが出来ました。



以下、その実施結果概要などについてご報告いたします。

1. システム監査体験セミナー1日コースの内容

SAAJ近畿支部で実際の監査を元に作り出した「システム監査の入門セミナー」の教材を活用させていただき、九州版として整え、システム監査はどういう手順でやるのかをロールプレイで入門・体験をして貰おうとの主旨で行われました。

時間：9時30分～17時の間で実施。

セミナー内容としては、

- ① システム監査概要」説明：中溝支部長。
- ② 演習1：(ケーススタディ)の説明：近畿支部の三橋氏。
- ③ 演習2：チェックリストを作成：3～4名の4チームに分かれ実施。

(スタッフが作成のサポート役として対応)



----- (昼食) -----

- ④ 演習3：「監査の実施」：各4チームが別室に分散し、それぞれ営業部長役および電算課長役のスタッフから、それぞれヒアリングを実施。

- ⑤ 演習4、5の説明：近畿支部の三橋氏。

- ⑥ 演習4：監査報告のまとめ：各チーム。

(スタッフが報告書作成のサポート役として対応)



⑦ 演習 5 : 監査結果発表 : 各チームが発表。

質疑者 : スタッフ (社長 < 支部長 >
システム監査室長 < 三橋氏 >
営業部長 < 2 名 >
電算課長役 < 2 名 >)



⑧ 教材解説・質疑応答・講師講評 : 近畿支部の三橋氏。

(スタッフも質疑応答への対応に加わる)

⑨ その他、アンケート記入等。

で行った。

2. 受講者について

参加された 14 名の内 3 名は当協会会員の方で、殆の方が非会員の方であり、保有資格では、IT コーディネーターの方が 10 名、技術士の方が 1 名、ISMS 審査員・補の方が 2 名、CISA の方が 1 名でした (重複あり)。

また、受講者の方の中には実際に監査等を経験されている方も数名おられました。

受講者の方々から、

(1) 今回のセミナー受講における全体の印象

- ・活発で面白いです。
- ・予備調査の段階から監査結果発表までのセミナーを別途開催して頂けると嬉しく思います。
- ・限られた時間ではあったが期待通りだった。
- ・監査側からの視点は初めてであり大変勉強になりました。
- ・なかなか難しかった。
- ・有益な時間でした。
- ・体験することにより内容が良くわかりました。
- ・初めてシステム監査業務を体験しました。まだまだ入口部分だと思いますが、非常に考えさせられた 1 日でした。



(2) お気づきの点、改善点など

- ・ステップ/ステップで解答を示す方式が初心者向きではと存じます
- ・クラウドシステムの監査、サーバ統合 (仮想化) システムの監査もテーマにして欲しい。
- ・企画/運営のスタッフの皆様、大変有難うございました。

また、このような機会をいただくと幸いです。

など多数のご意見・ご感想をいただきました。

3. その他、個人的な感想も含めて

今回のセミナー開催に当たっての裏舞台を少し紹介します。

私はリハーサル1回と当日の参加のみでしたが、福岡地区のスタッフのメンバーの方々はこのセミナーに向け、リハーサルによる再チェックや、会場（西南学院大学の西南コミュニティセンターの会議室の設備：利用出来る部屋の数・規模、机・椅子、電源など）の下見、またチーム毎に使う機器（PC、プリンター、USB、プロジェクター、電源ケーブルなど）の手配、さらに当日使用する資料の校正や印刷などの準備等で多くの時間を費やされ頭の下がる思いです。

特に、当日に被監査役（営業部長役、電算課長役）を演じるようになったスタッフに対し、再度のリハーサルに快く大阪から出向き指導して頂いた近畿支部の三橋氏には感謝の念に堪えません。

さらに付け加えておきたいことは、

システム監査学会の西南学院大学 伊藤龍峰教授からご協力をいただき
会場をお借りすることができたこと、

またスタッフの株式会社コンピュータ教育社の溝田明美氏から
セミナーで使うPC機器やプロジェクトの提供を受けたこと、

またそれを快く運搬するスタッフの居倉圭司氏など
多くの方々の協力や支えがあってこのセミナーが実現したことを報告させていただきます。

以上

注目情報 (2012/4/1～4/30)**■【IPA「プログラム言語Ruby、国際規格として承認」を発表】(2012/4/2発表)**

IPA(独立行政法人情報処理推進機構、理事長:藤江 一正)は、2008年にRuby標準化検討ワーキンググループ(委員長:中田 育男 筑波大学名誉教授)を設置し、Rubyの言語仕様の国際規格化へ向けた事業を進めてきましたが、この度、2012年3月31日に締め切られた国際規格承認のための最終投票の結果、Rubyが国際規格ISO/IEC 30170として承認されたと発表した。

Rubyは、ISO/IECにおけるプログラム言語規格の分野で初の日本発の言語となる。Rubyが国際規格となったことにより、Ruby言語仕様の安定性や信頼性が増し、Ruby関連事業の一層の国際展開が期待されている。

(URL: http://www.ipa.go.jp/about/press/20120402_2.html)

■【IPA「クラウドコンピューティングのセキュリティその意味と社会的重要性の考察」を公開】

(2012/4/24発表)

IPA(独立行政法人情報処理推進機構、理事長:藤江 一正)は、クラウドコンピューティング(*1)(以下「クラウド」)が広く社会経済に浸透しつつある現況を踏まえ、そのセキュリティ面での課題や考慮事項に関して整理を行い、IPAにおける問題意識とそれに関する取り組みを技術レポート「テクニカルウォッチ」としてとりまとめ、公開した。

本レポートでは、このような問題意識も含め、世界におけるクラウドのセキュリティに関する議論、主に想定されるクラウドのセキュリティに関する問題点や課題、クラウドの社会への浸透と緊急時の活用、クラウドサービスが停止した場合の影響とその対策、といった視点で情報を整理している。また、IPAにおけるクラウドのセキュリティへの取り組みについてもとりまとめている。

(URL: <http://www.ipa.go.jp/about/technicalwatch/20120424.html>)

レポート: [クラウドコンピューティングのセキュリティその意味と社会的重要性の考察](#)に関するレポート(PDFファイル 1.8MB)

全国のイベント・セミナー情報

■【事例に学ぶ課題解決セミナー】

情報システムの事故・障害で、企業や顧客が損失を被る事例が後を絶ちません。システム監査の専門家が事故・障害の原因を解き明かし、有効な対策を示します。

事故・障害の原因は報道だけでは分かりません。事故・障害事例をリスクとコントロールの視点で分析して、皆様の課題解決に役立つ説明をします。

情報システムの利用者から運営者、経営者から担当者まで多様な階層・職種の方のキャリアアップに、当セミナーをご活用下さい。

事故・障害を未然に防ぐシステム監査の役割とその有効性の理解向上にも役立ちます。

自社システムの信頼性・安全性をさらに高めたいと考えておられる経営者、役員の方、IT部門長の方など、多くの皆様の参加をお待ちしています。

なお、受講修了後、受講証明書をお渡ししています。

http://www.saa.or.jp/kenkyu/jirei_semi_panf.pdf

1. 日程及び会場

- ・平成24年6月2日(土)
- ・時間:13:00～17:00(進行状況により若干の変更が生じる場合があります。)
- ・会場:晴海グランドホテル(予定) 〒104-0053 東京都中央区晴海3-8-1

2. 費用 日本システム監査人協会会員:4,000円 一般:6,000円
(費用には、教材費・消費税が含まれます。)

3. 内容 事例を用いて次の順で講義(受講者も一部参加)します。

STEP1:事故・障害事例を把握する

STEP2:問題事象を考える

STEP3:リスク(脅威・脆弱性)を考える

STEP4:リスク対策(コントロール)を考える

STEP5:システム監査による評価

事例講義:「震災と情報システムの安全対策」

簡易演習:「大手電機メーカーの受発注・物流システムの障害」 なお、教材は、当日配布します。

4. 受講していただきたい方

どなたでもお申し込みいただけます。特に、経営者、役員、IT部門長の皆様の参加を歓迎いたします。

がある方(上記条件に当てはまらない方は、お問合せください)

5. 募集人員 定員18名(最小催行人員12名)

6. 受講申込み方法 http://www.saa.or.jp/kenkyu/kadaiseminar_6.html からお申込みください。

■【東京・月例研究会】

【5月の月例研究会】

- 開催日時 : 2012年5月21日(月) 18:30~20:30
- 場所 : 港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 地下2階 ホール ← これまでと違います
電話: (03)3434-8211(代表)
- 講演テーマ : 「ソフトウェア品質監査制度(仮称) ~ソフトウェアの品質説明力強化の取り組み~」
- 講演者 : 独立行政法人 情報処理推進機構/IPA
技術本部 SEC 統合系プロジェクト(兼)組み込み系プロジェクト
サブリーダー 工学博士 田丸 喜一郎 様
- 会費 : 日本システム監査人協会会員 1,000円 一般 3,000円
- 参加申込み : <http://www.saj.or.jp/kenkyu/kenkyukai171.html> からお申込みください。

※ 会員サービス向上の一環として、
今年度は、会員会費を2,000円から1,000円に値下げいたします。

また、開催場所がこれまでと変更になっておりますので、ご注意願います。

<5月以降の月例研究会予定>

- 【6月】 開催日時 : 6月20日(水)18:30~20:30
講演テーマ : 「社会保障と税に関わる番号制度について」(仮題)
講演者 : 内閣官房社会保障改革担当室
参事官補佐、弁護士 水町 雅子 氏
- 【7月】 開催日時 : 7月20日(金)18:30~20:30
講演テーマ : 「不正アクセス防止対策に関する行動計画」(仮題)
講演者 : 警察庁生活安全局情報技術犯罪対策課
専門官(防犯対策) 人見 友章 氏

■【近畿支部・第133回定例研究会】

開催日時 : 2012年5月18日(金)18:30~20:30
 場所 : 常翔学園大阪センター 301教室
 大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ3F 電話 06-6346-6367

講演テーマおよび講師

テーマ 「マイナンバー法案によって変わる事業者における個人情報管理」
 講師 福本 洋一 氏(弁護士法人第一法律事務所)

概要 今国会に提出されている「マイナンバー法案」で、同法によって新たに生じる個人情報の取扱い規制の概要と、個人情報データベース作成禁止による既存の従業員・顧客情報に関連するシステムに与える影響について紹介する。

参加費 : 日本システム監査人協会会員 1,000円
 ISACA大阪支部会員 1,000円
 両協会の会員以外の方 3,000円

参加申込み : <http://www.saa.or.jp/shibu/kinki/kenkyukai133.html> からお申込みください。

■【近畿支部・システム監査体験セミナー1日コース】

日本システム監査人協会近畿支部では、情報システム関連業務に携わっている皆様に、「システム監査」に興味を持っていただくことを目的に、「システム監査」の入門ワークショップを開催します。

企画・開発・運用やIT経営コンサルティングなどの業務を「システム監査」という違った観点から眺めてみることは、今後の業務実施に役立つ有意義な経験です。

また、企業内で求められる内部監査人の入門としても最適です。本セミナーでは、座学で、システム監査の意義、資格、監査プロセス及び演習の目的・内容等について、概要を学習いただくだけでなく、グループワーキングで、監査チーム(3、4人)を編成して、システム監査プロセスの一部を疑似体験します。

あなたもシステム監査人の世界を体験してみませんか。

どなたでもお申し込みいただけます。お気軽にご参加ください。

本セミナーでは、システム監査の概要とそのプロセスの一部を疑似体験できます。

1. 日時 2012年6月23日(土)10:00~17:00
2. 場所 常翔学園 大阪センター
 大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ3F TEL:06-6346-6367

-
3. 費用 日本システム監査人協会会員4,000円 / その他の方 5,000円
4. 内容 システム監査入門講義(座学)、3~4名のグループでシステム監査プロセスの一部を体験いただくグループワーキング(演習)、ワンポイント監査実話、監査結果の発表と講評。
- 体験セミナーですので、システム監査に関連する事前知識は必要ありません。
(ITコーディネータ知識ポイント1P付与)
5. テキスト オリジナル資料
6. 講師 近畿支部のシステム監査サービス等経験者
7. 対象者 システム監査に興味のある方ならどなたでもお申し込みいただけます。
8. 定員 16名(最小催行人員8名)
9. 申し込み期限 2012年6月10日(日)締切り
10. お問い合わせ 日本システム監査人協会 近畿支部 セミナー係
(E-mail: semi2012@saaik.org)
※お問い合わせは、E-mailのみとさせていただきます。
11. 参加申込み
<http://www.saaik.or.jp/shibu/kinki/taiken20120623.html> からお申込みください。

会報編集部からのお知らせ

1. 2012年4月～2012年6月発行の会報テーマ「システム監査人としての悩み」について
2. 会報記事への直接投稿（コメント）の方法
3. 投稿記事募集

□■ 1. 2012年4月～2012年6月発行の会報テーマ「システム監査人としての悩み」について

先月号において6月までの3か月間の会報テーマとして「システム監査人としての悩み」を取り上げており、投稿やご意見を募集、掲載しておりますが如何でしょうか。

普段、他のシステム監査人が何を考え、行動し、その結果として苦労や悩み、問題、課題を抱えているのか知る機会はそれほど多くないと考えます。「悩み」を共有することで即解決が見えることは難しいですが、多くの人が「悩み」を共有することでちょっとしたアイデアやヒント、勇気となれば幸いです。

引き続き6月発行分につきましては「システム監査人としての悩み」をテーマとして、ご経験やご意見等を募集しております。ご投稿をお待ちしております。（ここでは、「システム監査人の悩み」とはしていますが、企業等のシステム監査部門に属している方、システム監査人を志向している方、あるいはシステム監査を受ける側の立場の方（システム管理者等）など、記事募集の対象者は広くとらえていただいても結構です。）

また、その後も掲載を継続や議論したいテーマなどありましたら会報担当へとお気軽にご相談ください。

□■ 2. 会報の記事に直接コメントを投稿できます

会報の記事は、

- 1) PDF ファイルの全体を、URL (<http://www.skansanin.com/saaj/>) へアクセスして、画面で見る
- 2) PDF ファイルを印刷して、職場の会議室で、また、かばんにいれて電車のなかで見る
- 3) 会報 URL (<http://www.skansanin.com/saaj/>) の個別記事を、画面で見る

など、環境により、様々な利用方法をお使いいただいているようです。

もっと突っ込んだ、便利な利用法はご存知でしょうか。

気に入った記事があったら、直接、その場所にコメントを記入できます。著者、投稿者と意見交換できます。コメント記入、投稿は、気になった記事の下部コメント欄に直接入力し、投稿ボタンをクリックするだけです。動画でも紹介しますので、参考にしてください。

(<http://www.skansanin.com/saaj/> の記事、「コメントを投稿される方へ」)

□■ 3. SAAJ 会報編集担当より お知らせ

会員の皆様からの、投稿を募集しております。分類は次の通りです。

1. めだか (Word の投稿用テンプレートを利用してください。会報サイトからダウンロードできます)
2. 会員投稿 (Word の投稿用テンプレートを利用してください)
3. 会報投稿論文 (論文投稿規程があります)

これらは、いつでも募集しております。気楽に投稿ください。

特に新しく会員となられた方(個人、法人)は、システム監査への想いやこれまで活動されてきた内容で、システム監査にとどまらず、IT 化社会の健全な発展を応援できるような内容であれば歓迎いたします。

次の投稿用アドレスに、テキスト文章を直接送信、または Word ファイルで添付していただくだけです。

投稿用アドレス: saajeditor@saaj.jp

会員限定記事

【本部・理事会議事録】(会員サイトから閲覧ください。パスワードが必要です)

=====
■発行: NPO 法人 日本システム監査人協会 会報編集部

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-8-8 共同ビル 6F

■ご質問は、下記のお問い合わせフォームよりお願いします。

【お問い合わせ】 <http://www.saaj.or.jp/toiawase/>

■送付停止は、購読申請・解除フォームに申し込んでください。

【送付停止】 <http://www.skansanin.com/saaj/>

Copyright (C) 2012、NPO 法人 日本システム監査人協会

掲載記事の転載は自由ですが、内容は改変せず、出典を明記していただくようお願いします。

□■ SAAJ 会報担当

編集: 仲 厚吉、安部晃生、越野雅晴、桜井由美子、中山孝明、藤澤 博、藤野明夫

投稿用アドレス: saajeditor@saaj.jp